



市民病院

ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

じょくそう

褥瘡チームを
紹介します

「褥瘡」と聞いて分かる人はどのくらいいるのでしょうか。褥瘡とは「床ずれ」のことです。昔は「寝だこ」とも呼ばれていました。けがや病気で寝たきり状態になり、自分で身体を自由に動かすことができない人に発生します。知覚障害や皮膚の湿潤、栄養状態の低下や同一部位に一定時間の圧迫が加わったり、摩擦・ずれにより発生リスクは高まります。

高齢化社会に伴い、入院患者さんの年齢も高くなり、入院時すでに日常生活動作（ADL）が十分できない場合もあります。自宅で倒れ、数時間経過し、受診したときにはもうすでに褥瘡が発生してしまっているケースもしばしば見られます。

市民病院では、褥瘡チームが月2回褥瘡予防ラウンド・褥瘡回診を行い、最良の方法を検討し予防対策・治療を行っています。医師、薬剤師、栄養士、看護師からなる構成メンバーで回っています。

褥瘡発生リスクの高い患者さんには高機能エアマットレス（体圧分散寝具）を使用し、発生時は速やかに対応しています。褥瘡の状態に応じたケアを行い、早期治癒を目指します。

褥瘡チームの医療スタッフが病室を訪れた際は、よろしくお願いします。



碧南の歴史へのいざない

問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

No.46 碧南市史料 第71集

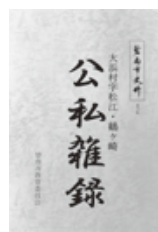
大浜村字松江・鶴ヶ崎 公こう私し雑ざつ録 (3)

何故「御礼金」が必要だったのか

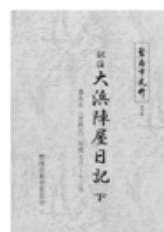
キーワードは「花火」

前回、「碧南市史料第71集 大浜村字松江・鶴ヶ崎 公私雑録」のなかから、嘉永7年（1854年）に、松江・鶴ヶ崎（現在の新川町）の有力者らが浜陣屋の役人などに渡した「御礼金」の明細があることをお伝えしました。今回は、「碧南市史料 第70集 訳注 大浜陣屋日記 下」のなかから、この件に関連していると思われる記録を紹介します。

当時松江・鶴ヶ崎にいた一部の人たちが、8月の祭礼の前日に予定になかった花火をしました。その後、関係者立ち合いのもと彼らは白洲（江戸時代の法廷）にかけられ、処罰を受けることになりました。



△公私雑録



△大浜陣屋日記 下

江戸時代の祭礼の手続きはとても厳しく、祭礼の日にと演目を事前に陣屋へ届け出て、当日、役人が確認するため見に来るほどでした。したがって、届けにないことをするとこのように処罰の対象になりました。昔は連帯責任というしもあり、親類や地域の有力者にも影響がありました。冒頭の「御礼金」は、その花火の件で迷惑をかけた人たちにあてたものだと思います。

別々の史料でも、読み比べてみるとこのように連動しているものもあり、1つの事柄を別の角度から見ることができ、興味深いことがわかります。